

令和 5 年度

杵藤圏域二級水系流域治水協議会

杵藤地域の県管理河川大規模氾濫に関する減災対策協議会

2 市町の実施について

- ・ 鹿島市
- ・ 嬉野市
- ・ 白石町
- ・ 太良町

災害対応(リモート)

作成年月: 令和6年3月

【令和3年度～令和5年度の3年間で6か所※を計画】

(総務課防災係)

・河川監視カメラ一式 2台(1年あたり) × 3か年 = 6台 → **設置完了**

災害時(警報発令中など)に河川水位や水流などを、市民の皆さんが24時間リアルタイムで安全に確認できる(室内でのケーブルテレビ視聴)監視カメラの購入と設置。※令和7年度までの計10か所を計画していたが、ケーブルテレビ独自設置箇所数も増えていることから事業期間を短縮。

更に、水害等における市職員や消防団等の防災活動の一つに河川への「現地確認」等があるが、その活動は複数人で行うことが原則であり、コロナ禍はその現地へ向かう車内が「三密状態」であったので、河川に固定監視カメラを設置し、感染拡大防止、円滑な災害対応を行ったところ。

現在18か所(鹿島市ケーブルテレビ12か所+市6か所) 【参考】ライブカメラ設置箇所(CATVでもチャンネル増設し視聴可)

※県「すい坊くん」7か所+武雄市(杉橋)、嬉野市(塩田橋)も視聴可

※R5当初は市単独で4か所 → **10か所以上まで拡大**



(ケーブルテレビ設置)

- ・桜大橋(鹿島川)
- R4・鹿島川鉄橋付近
- ・巖橋(中川)
- ・古場切橋(浜川)
- ・新浜大橋(浜川)
- R3・飯田川鉄橋付近
- 【鹿島市設置】
- R3・琵琶岬橋(母ヶ浦川)
- R3・音成鉄橋付近(黒木川)
- R4・太鼓橋(浜川)
- R4・古渡橋(塩田川)
- R5・川内区(浜川)
- R5・龍宿浦区(龍宿浦川)

(参考)水位計設置河川(すい坊くん): 石木津川(井手分橋)、中川(巖橋・片山橋・中川堰)、
 鹿島川(組知橋・重ノ木)、塩田川(塩田橋) 計7か所に設置

危機管理型水位計(//): 黒川(畑田橋)、黒木川(黒木橋)、飯田川(飯田橋)、中川(中川橋)、
 鹿島川(鹿島橋)、母ヶ浦川(宮の前橋) 計6か所に設置



コロナ禍は河川状況確認時、
 消防車内が密接状態

現場に行った人しか河川の状況が分からない
 & 危険。早めの行動(避難等)につながらない



カメラ箇所増により、市地区対策
 部や各家庭においてCATVで確認できる箇所が増える
 ↓
 密接状態の回避 & 早めの避難行動に繋がる

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

■ケーブルメディアとの連携による河川情報の提供

はぐくれテレビご加入者向けサービス「防災ライブカメラ」に内水氾濫地域1箇所が追加になった。(赤枠画面)

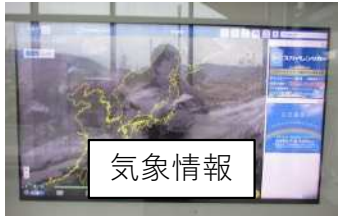


②児童・生徒への防災教育を通して、防災知識と日頃の準備の必要性などを家庭内に普及して、防災意識の向上を図るための取組

■防災パンフレットを全児童・生徒へ配布（令和5年1月）
 自宅の玄関、リビング等に貼り、利用しやすいパンフレット



③「道の駅うれしのまるく」から観光客等の安全を確保するため、各種防災情報を発信



「道の駅うれしのまるく」情報提供施設

◆成果
 市民や観光客等市内に所在する人に河川情報を含む様々な防災情報を周知することができ、更に避難行動を促せるようになった。

◆今後の予定
 防災アプリの作成を検討しており、「一人も残すことなく」避難行動を促す体制を追及する。

取組項目名：洪水被害軽減のための取組と既存施設運用の工夫等の取組

■ 既存施設運用等

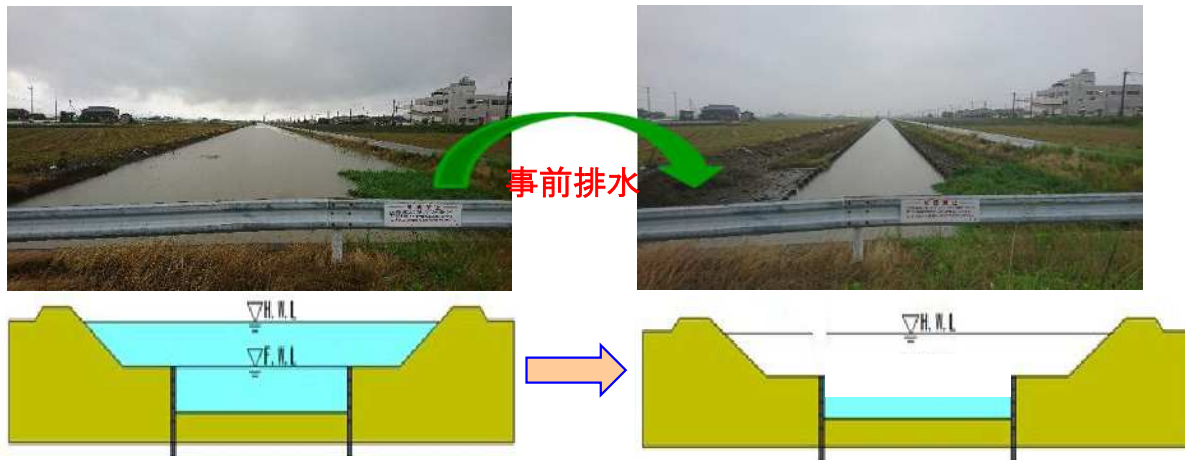
【豪雨に備えたため池やクレーク等の早期排水】

【大雨に備えた事前の対策】

- 大雨警報が想定される場合
 - 防災行政無線により、町内全域に事前排水を呼びかけ
 - 町内巡回により、個別に事前排水を要請（ほか電話連絡等）

治水効果

湛水被害を軽減するため、大雨時の一時貯留断面を確保



- 近年の天候（大雨）の傾向と対策
- 事前排水の重要性の説明
- 調整員、上下流域間の連携強化など



≪排水調整会議の開催≫

ゲート操作による排水調整



効果 ○町内各地域に事前排水を呼びかけ、事前排水の徹底を図ることで湛水被害の軽減と町民の防災意識の向上を図ることができた。

【令和5年度】
 防災監視カメラシステムMinsai(見んさい)の運用開始。



【白石町防災カメラシステム】
 Minsai(見んさい)

白石町が設置した防災カメラ10か所と共に、国県などの協力を得て、カメラ、センサー50数か所の画像やデータを使って「リアルタイム」に周辺の道路・河川・水路の状況、気象情報を確認できる。
 災害時の初動対応や避難準備のタイミングに効果を期待している。

防災行政無線との連携による河川カメラの活用事例（太良町）

【課題】

町内河川の今現在の状況を
庁舎内で確認できない。

【解決策】

災害時（警報発令中など）に河川水位や水流などを、リアルタイムで安全に確認できる河川監視カメラを令和4年度に設置。高感度/高繊細な小型カメラで、いつでもどこでもしっかり監視ができるようになった。

【設置写真】 専用PC



河川カメラ（ソーラーパネル付き監視カメラ）



近年の豪雨による河川氾濫を踏まえ、大雨で川の水位が上昇したときに水位状況等を確認し、避難判断を行うことが重要である。

そのため令和4年度の防災行政無線の整備に合わせ、町内の重点監視地点における地域の河川水位を監視するため、2箇所にて河川カメラを設置し映像情報収集する。